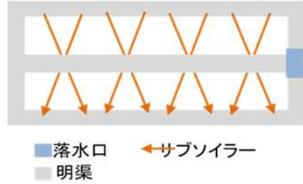


■ほ場の排水対策の例



■鳥害防止忌避剤使用基準

名称	使用時期	使用量	使用回数	使用方法
キヒゲン	は種前	乾燥種子重量の1%	1回	種子粉衣

■品種と播種方法

品種	播種時期	粒数 (107-ルあたり)	条間 (センチメートル)	株間 (センチメートル)
ファームデント110 (ファームテックジャパン)	4月上旬～5月下旬	6,000～6,500	6.9	2.2～2.4
ファームデント118 (ファームテックジャパン)	4月上旬～5月下旬	6,000～6,500	6.9	2.2～2.4
ゴールドデントKD731 (カネコ)	4月上旬～5月下旬	6,000～6,500	6.9	2.2～2.4
サイレージコーンNS125 (カネコ)	4月上旬～5月下旬	6,000～6,500	6.9	2.2～2.4
スノーデント125T (雪印)	4月上旬～5月下旬	6,000～6,500	6.9	2.2～2.4

■10アルあたり施肥設計例

(単位kg/ha)

堆肥3トン

肥料名	量	チッ素	リン酸	カリ
化学肥料	投入量	10～12	12～15	6～8
高度化成14-14-14	80	11.2	11.2	11.2

堆肥5トン

肥料名	量	チッ素	リン酸	カリ
化学肥料	投入量	8～10	10～12	5～7
高度化成14-14-14	70	9.8	9.8	9.8

■カブラヤガ等(ネキリムシ類)殺虫剤使用基準

資材名	使用時期	薬量(107-ルあたり)	使用回数	散布方法
ガードベイトA	生育初期、但し、収穫4日前まで	3kg	4回以内	株元散布

■除草剤使用基準

除草剤名 特長	使用時期	薬量(107-ルあたり)	希釈水量(107-ルあたり)	使用回数	散布方法
ラウンドアップマックスロード 一年生雑草及び多年生雑草	飼料用とうもろこし出芽前まで(雑草生育期)	200～500 ミリリットル	過量散布 50～100 リットル 少量散布 5～50リットル	2回以内	雑草茎葉 散布
エコトップ乳剤 (土壌処理) 一年生雑草	は種後出芽前(雑草発生前)	400～600 ミリリットル	100リットル	1回	全面土壌 散布
ゲザノンゴールド (茎葉処理) 一年生雑草	とうもろこし2～4葉期	140～260 ミリリットル	70～100 リットル	1回	全面土壌 散布
アルファード液剤 一年生雑草	とうもろこし3～7葉期、但し、収穫45日前まで	100～150 ミリリットル	100～150 リットル	1回	雑草茎葉 散布 又は全面 散布

残草処理を要する場合

ワンホープ乳剤 一年生雑草 多年生イネ科雑草	とうもろこし3～5葉期、 但し、収穫30日前まで	100～150 ミリリットル	70～100 リットル	1回	雑草茎葉 散布 又は全面 散布
バスタ液剤 一年生雑草	収穫7日前まで(雑草生育期:は種前又は畦間処理)	300～500 ミリリットル	100～150 リットル	3回以内	雑草茎葉 散布

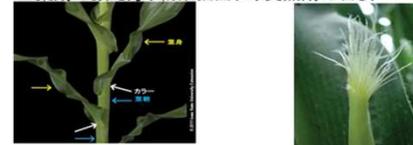
■主な害虫



■殺虫剤使用基準

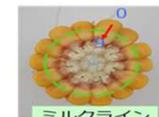
農薬の種類	適有害虫	使用時期	使用液量 (107-ルあたり)	希釈倍数	使用回数	使用方法
パダンSG水溶剤	アワノメイガ	収穫21日前まで	100～300リットル	1000～1500倍	2回以内	散布
	アワノメイガ	収穫21日前まで	0.8～1.6リットル	8倍	2回以内	無人航空機による散布
	アワノメイガ	収穫21日前まで	1.6リットル	16倍	2回以内	無人航空機による散布
	アワヨトウ	収穫21日前まで	100～300リットル	1000～1500倍	2回以内	散布
トアロー水和剤CT	アワノメイガ	発生初期但し収穫前日まで	100～300リットル	1000倍	-	散布
	ツマジロアサヨトウ	播種前	乾燥種子1000粒当たり 原液1.5～2.5mL	-	1回	塗抹処理

■葉期の数え方、絹糸抽出日、黄熟期の目安



葉身と葉鞘の間の境界線「リーフカラー(カラー)」を数える

約半分の個体で絹糸が現れた日を絹糸抽出日とする



黄熟期の目安は雌穂の上位3分の1部分を折って先端側を確認し、黄色(デンプン)と白色(乳汁)の割合が1/2になるミルクラインを形成した時